慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	米国経済学の歴史的瞥見（植民地時代より十八世紀末に至る）
Sub Title	
Author	町田, 義一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1926
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.20, No.9 (1926. 9) ,p.1157(107)- 1184(134)
JaLC DOI	10.14991/001.19260901-0107
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19260901-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

來ないではない。(iii)

(i) Taylor, Principles, p. 36

(ii) Marshall, Industry and Trade, pp. 392-3.

(iii) Heimann, Mehrwert und Gemeinschaft, S. 144. f.

米國經濟學の歷史的瞥見

植民地時代より十八世紀末に至る

町田義一郎

一

Cliffe Leslie はその論文 Political Economy in the United States. (1880.) に於て米國經濟學の不進に就いて次の如く述べてゐる。「米國は新事實の歸納的研究によつて富の科學に獨創的な大きな貢献を爲すものと他國に比して當然期待し得る國である。舊世界の經濟現象と新世界のそれとの或相違、比類なき急速なその物質的發達、新奇な自然的及び政治的狀態、歐洲諸國の人々が蒙れる諸制限を免れ居る事、君主政體、貴族階級、軍事的分子、並に之等が生產及び分配に與ふる奇異なる指圖のない事は最も有望な觀察場を展開する樣に思はれる。又或國の全經濟的發達の最重要部分が未だ記憶に新なる時代に行はれた國に於ては、此大なる發達の達せれたその社會進化の法則に關して何等か重要な發見が行はれ得るであらうと期待するのは故なき事ではなからう。」然るに「米國の經濟學は主として歐洲からの輸入品であつて獨創的發達を遂げたものでない。それは四圍の現象の歸納的研究は極めて僅しか行はずしてその大部分は一般的假定から行ふ演繹法に從つてゐるのである」と。英國歷史派の開拓者たる Leslie の不滿が前述の如き有望な特異の社會的經濟的狀態にありながら

米國に於て之に歸納的研究の試みられなかつた點にあるのは當然の事であらう。然らば此經濟學不進の原因は何處にあるか。知的能力の欠乏によるのではなく「その原因の最も顯著なものは大陸の自然的資源、國内の商業と移住の便利なる事と、一方では二大洋によつて舊世界の最も重大な事變から分離せる事を併せ包含したる地文學の部門に分たれ得るものである」と。今 Leslie の説く處を要約してみるに人類の精神的活動の大部分は日常の實務に働きその餘剰が學藝方面の開發に利用されるのである。然るに自然的資源の非常に豐饒なると又非常に之の欠乏せるとの二つの相反する自然的環境は共に高い知的發達の範圍を制限する傾向がある。即ちその後者の例は Lapland や Greenland に見るところであり又前者の實例は米國である。自然の資源の豐富な新世界の開發に國民の精神が向けられて、富に關する理論の研究よりも寧ろ實際に富の獲得に向けられたと云ふ事が斯學の發達を見るに至らなかつた一原因であると共に、又舊世界、殊に英佛に於ては幾多の緊急な解決を要する經濟上の問題が發生し之あるが爲めに Quesnay 出で Adam Smith 出るに至つたのであるが、此樣な富に關する問題が米國には全く發生せず或は發生することあるも比較的重大でなかつた事が又その原因であると。(Leslie, Essays in Political and Moral Philosophy, 2nd. ed., pp. 126-133. 參照)

C. F. Dunbar は又 Economic Science in America, 1776-1876. (1876) に於て米國の過去一世紀に亘る經濟學の發達を概括して「合衆國は經濟理論の實際的適用に大なる直接の利害關係ありしにも拘はらずその理論の發達には何等貢献するところがない」と稱し、又 L. H. Haney の如き今日までの發達を見るも「米國經濟學派といふ事が苟且にも云はれるならばそれは Carey とその門下を意味するのである。之は全く獨特である。」が他には一學派を成すと考へ得る樣な經濟學者の團體が存在しなかつたと云ふ。(History of Political Economy. p. 249) 併し Carey 一派の外に一八〇年代の盛んなる保護政策運動に際して American System なる名稱は高率の輸入税賦課と國内の資源開發との政策に用ひられた。そして Friedrich List は之を以て Adam Smith の「世界主義」に對する反動なりとして「米國經濟學」なる名稱を與へた。(M. E. Hirst, F. List, 1907. cit. by Hollander) 併し F. W. Taussig は此 American System なる運動は寧ろ政治史上の一挿話であつて之に比すれば Carey 一派は米國學派の名は妥當なるものがあると云ふ。即ち「Ricardo の地代論と Malthus の人口論に對する反駁、樂天主義、保護政策の主張等は何れも肥沃廣大な土地を有し人口と富は急速に增加し而も舊世界の社會を惱す樣な難問題には遭遇せず時と共に産業の進歩發達しつゝある此新興共和國の經濟狀態に相應しいものである。此意味に於て Carey の學説は米國流であり又合衆國が之れまで經濟學上に與へた最も顯著な貢献である」と云ふ。

而も Carey に就いては Seligman の如き「その當時彼の振つた勢力は大であつたが後代の人は經濟學に對する彼の貢献中に殆ど永久的價値を見出さぬ」と稱し。(Essays in Economics. pp. 141-142) 又 J. H. Hollander は「Carey の業績を以て建設的の學説或は永久的影響のものよりは寧ろ地方的な一時の四圍の事情によつて激勵された透徹した批評である」と云ふ。然らば他に米國經濟學派なるものが存在したであらうかと云ふに Hollander は「米國の經濟事情、政治組織社會組織並に教育方法の顯著なる特徴は米國に於ける經濟思想並にその著作に明かな影響を及ぼした。此意味に於て

『米國學派』といふ名稱に對するの論據は存在する」と。（註）併し之れだけの理由を擧げたのでは一學派成立可能の背景を述べたまでゞあつてその存立の論據としては漠然として薄弱な感がせられるのである。

（註）Taussig 及び Hollander の盲は Palgrave 辭典の第一卷く寄稿の "American School of Political Economy." pp. 37-38 (Taussig) pp. 804-811 (Hollander) に據る。

二

Dunbar 或は Leslie の評論起草當時は勿論の事今日の發達したる米國の經濟學に對しても猶英國の古典學派或は獨乙の歷史學派に相對する樣な意味に於ての所謂米國學派なるもの丶存在を主張する學者があるならば或は今猶米國の經濟學には未だ斯る名稱に値するだけに顯著なる特徵存在せずとして之に反對する人も多々あるであらう。勿論過去に於ける米國の經濟學に何等の特徵が存しなかつたと云ふ事は出來ない。既に Leslie も之を認めて「米國の經濟學は何等特徵を有せず或は又その研究により學び得るところ殆どなしと云ふは誤りたる斷案である」として、米國の經濟學說は說明の明確と新奇な實例との外に猶著しい特徵ありとして四項目に分つて之を詳細に說いてゐる。今その大樣を述べれば、（op. cit., pp. 133-142. 參照）

（一）殆ど總ての經濟論者が一致して Malthus の人口論を排斥し或は又實際上重要なるものにあらずとして看過してゐる。自由論者保護論者は勿論、他の點では全く說を異にする Henry George の如きも此問題では相一致してゐる。

（二）神學的分子の著しきことである。米國では神學は經濟學の支柱である。Malthus の人口論の如きも一面に於て之は無神論であつて地上に滿ち溢れさせんとする天誡に反するものであるとて反駁された。神の意志と企圖に關する假說は保護論者にも自由論者にもその理論を支持する爲めに用ひられた。然らば斯る特色は如何にして發生したか。その一原因は主なる米國植民地はその起源が宗敎的であつてその神學上の敎義の傳統的感化の存することである。又その上東部諸州の主なる大學は宗敎上の目的の爲め設立されたものであつて、その影響は漸次減少しつゝはあるも猶存在し、近時――即ち Leslie の起稿當時――も經濟學の講師は多くは僧侶である。此事は單に經濟學に限つた事でなく政治學の如きもさうなのである。蓋し俗人はもつと有利な事業に携はるからである。又米國人の繁榮並に人類の努力が自然から受ける潤澤な援助とは歐洲社會の一般狀態に比して經濟界の秩序には仁慈なる神の企圖が存在するといふ假定に一層調和するものがある。

（三）「英國經濟學者が好んで行ふ樣に競爭は一國全體を通じて異つた職業と地方に於ける勞働者の賃銀と資本家の利益とを等しからしめると云ふ假定からの演繹の長い連鎖が米國の經濟學には存在しなかつた。米國に於ては勞働と資本とが可動性を有するから、相等しき努力と犧牲の收益は相等しいといふ理由によつて、代價は生產費に據るとの說が米國では極端まで推し進められるだらうとは當然豫想されたかもしれぬ。ところが却つてそれは或米國の經濟學者には斥けられ、或人々によつては無視され又は大なる制限を附せられ、そして何人によつても理論構成の基礎とはされなかつた。而してそれには二理由が歸せられる。――即ち、第一は米國の產業過程上の急速な發明と變

遷である。何となれば産業上の技術の停止狀態に於てのみ商品の價値はその最初の費用に據るものだからである。第二は代價の變動、及び投機の結果起る初めの費用との明瞭な差異並に米國の取引の營まれる廣大な地域に亘つた需要供給の地方的變動である。」と云ふ。

（四）保護貿易論を學說として大學及び敎科書中で系統的に敎授してゐる事である。歐洲では殆ど總ての經濟學者が自由貿易論者である時代に此事の行はれつゝあるは米國の一特徴と見らるる可きである。Pennsylvania の如き州では自由貿易論者は敎職に就く事が出來なかつた。併しやはり大體に於て多くの學者は自由論者であつた。

以上 Leslie が特徴として擧げたところは殆ど半世紀前までの米國の經濟學界に對する觀察であつて今日では寧ろ Leslie の謂ふところの特徴のあるものは薄らぎ或は消滅し、他に多くの特徴が現はれつゝあると云ふ事が出來るであらう。併し今それに就いて彼此愚見を述べるを要せぬのである。蓋し筆者が歴史的瞥見を試みやうとするのは Leslie の評論以前の發達に就いてだからである。

米國經濟學の發達を分けて Seligman は第一植民時代、第二十八世紀末に至る時代、第三南北戰爭に至る十九世紀時代。第四戰後時代、第五近代經濟思想學派の五期に又 Hollander は之を第一期植民地時代（一六〇七年――一七七六年）。第二期國家創成時代（一七七六年――一八一二年）、第三期國内發達時代（一八一六年――一八六一年）、第四期過渡時代（一八六一年――一八七六年）、第五期最近時代（一八七六年――一九二四年）に區分してゐる。筆者が茲にその發達を瞥見せんとするのは大體兩論者の第二期即ち十八世紀末までの期間に就いてゝある。（註）

（註）本稿起草の參考に供せし仕僅に次の數論文に過ぎぬ

(1) Cliffe Leslie, Political Economy in the United States. (Essays in Political and Moral Philosophy. 2nd. ed., pp. 124-154.)

(2) C. F. Dunbar, Economic Science in America, 1776-1876. (Economic Essays. pp. 1-79.)

(3) Palgrave's Dictionary of P. E. 所載 Hollander, Taussig, Dewey 等の寄稿

(4) Seligman, Economics in the United States: An Historical Sketch. (Essays in Economics. pp. 12-133.)

最初は此一篇中に最近の時代或は少なくとも Henry George 若しくは Henry C. Carey 時代にまで及ぶ豫定で筆を執つたのであるが Seligman の揭げる小册子を總て轉載した爲め　斯樣な事は無意義なりと云はれても返す言葉がないが――到抵豫定の紙數では纏め得ず止むなく十八世紀末までに止めたのである　機會があれば十九世紀以後に就いて今少し詳しく紹介してみたいと思ふ。

三

一科の學としての經濟學の成立は近世に於ける經濟發達の産物である。英國では Adam Smith の時代に佛蘭西では Physocrats 時代に始るものと云ふを得るであらう。併し乍ら之に先立つ數世紀間に多數の先驅者が個々の問題について議論を戰はし或は又暗中摸索的な眞理探求を試みた結果十八世紀に至つて初めて斯學の實を結んだのである。之等先驅者の論議或は眞理の追求は何れもその當時の實際狀態に對する不滿の結果生じたのであつて皆な或實際問題を中心としたのであつた。

米國の經濟的變遷從つて又その經濟學の發達も亦英佛に比しては遙に後の事ではあつたが斯學發達の經過に就いて見れば英佛と揆を一にするものと云ふを得るのである。先づ植民地時代に於ける

個々の問題に關する公開討論、法律制定に關する論議、說敎演說、新聞紙上の論爭等に始つた。併し獨立戰爭前の經濟問題といへば僅に通貨、貿易、租稅及び農業に關したものであつた。

最も重大な且つ最も論爭の的となつたのは通貨問題である。蓋し通貨は公私の支拂資料に關連し一般の利害に係はるところが大だからである。植民地に於ては鑄貨を適當に流通させる事が殆ど不可能であつたので先づ銀行及び通貨問題が植民地の思想家の注意を引いたのである。

併し十七世紀中に出版された經濟上の小冊子で今日殘存するものは僅に Severals Relating to the Fund(1682); A Discussion and Explanation of the Bank of Credit. (1687) 及び Some Considerations on the Bills of Credit now passing in New England. (1691)に過ぎず。何れも Massachusetts 出版の價値に乏しい匿名冊子である。十八世紀に入つては一七一四年、一七二〇年及び一七四〇年頃をそれぞれ中心として盛んに議論の戰はされた時期があつた。（註一）論者は John Wise, Thomas Hutchinson, John Colman, Hugh Vance, Richard Frye 等——牧師、政治家、實務家、空想家——の人々があつたが中で最も傑出したのは博學の醫師 William Douglass である。（註二）彼は殊に Massachusetts の通貨政策に興味を懷き土地銀行及び紙幣（paper bills）に關する論爭に參加し An Essay Concerning Silver and Paper Currencies more Especially with Regard to the British Colonies in New England, Boston, 1738, pp. 23. を公にした。又一七四〇年には A Discourse concerning the Currencies of the British Plantations in America, Especially with Regard to Their Paper Money, Boston, pp. 47 (also with Postscript, pp. 47-62.)並に A Summary, Historical and Political, of the First Planting, Progressive Improvements and Present State of the British Settlements in North America, Boston and London, 1755. を著はした。Douglass は當時の紙幣濫發の大要を述べ之が理由として、高利貸が借主に高利を徵し得ない樣に、輸入超過に伴ひ對外貸借決濟の爲に流出して銀貨の欠乏を來せる爲めと、貿易が發達してその需要に應ずる爲め紙幣を利用し得る樣に、及び『多大の發行に依つて土地の名義價値は增加し、而して負債が實際上には減じ』負債者の救濟に利用し得る樣に等の理由を擧示した。(Palgrave's. vol. I p. 635.)

Adam Smith が "the honest and downright Doctor Douglas" の說として國富論中に引用したのは前掲 Summary からである。（註三）

通貨に關する論爭は Massachusetts に限られた事ではなく Philadelphia に於ては一七二九年に Benjamin Franklin が匿名の一書 A Modest Inquiry into the Nature and Necessity of Paper Currency を書いて Pennsylvania に於て土地を保證として發行する政府紙幣の辯護論を試みた 又一七三四年には幾分の價値ある An Essay on Currency と云ふ南部地方では最初の通貨問題の論文が Charleston で出版された。次いで一七三七年には植民地に於ける政府紙幣辯護論中最も傑出せる Report of the Committee of the Commons House of Assembly of the Province of South Carolina on the State of Paper Currency of the said Province. 並に New York の小冊子 Scheme(by Striking 20,000 Pounds of Paper Money) to Encourage Raising of Hemp and the Manufacture of Iron in the Province of New York. が發表された。その後 Webbe の匿名書 A Discourse Concerning Paper Money in which its

Principles are Laid Open (Philadelphia, 1743.) 及び無名氏の An Address to the Inhabitants of North Carolina on the Want of a Medium in Lieu of Money. (Williamsburg, 1746.) の二冊子が刊行された。

一七五一年になつて New England に於ける紙幣發行の禁止と共に論爭は鑄貨問題に移つた。一七六二年には Thomas Hutchinson, A Protection for Regulating the Value of Gold and Silver Coins within the Province of Massachusetts Bay. 及び Oxenbrige Thatcher の匿名書 Considerations on Lowing the Value of Gold Coins within the Province of Massachusetts Bay. が Boston から出版され、又先きの紙幣問題に關する反響として Philoeunomos と云ふ假名で Roger Sherman 著の A Caveat against Injustice or an Enquiry into the Evil Consequences of a Fluctuating Medium of Exchange. (New York, 1752.); T. R. Cooper, A Letter to the Common People of the Colony of Rhode Island Concerning the Unjust Designs ..... of a Number of Misers and Money Jobbers. (Providence, 1763.) 並に The Letter from a Gentleman in Connecticut relative to Paper Currency. (Boston, 1766.) が發表された。又此時期中の最も優れた論說は Tench Francis の匿名冊子 Considerations on a Paper Currency. (Philadelphia, 1765.) であると云ふ。

（註一）當時のパンフレットは一九一一年に Boston の Prince Society から McFarland Davis の編輯によつて四卷に收められて出版された由。

（註二）Douglass（一六九一年頃——一七五二年）——（Seligman に據ると一六九二年—一七四二年であるが）——は Scotland の Gifford に生れ一七一八年に醫者として Boston に移住し醫學上の論文も多くある由。（D. R. Dewey, Palgrave's. 物價の項記）

（註三）Smith が Douglass の名を挙げて引用した箇所は氣賀博士譯三九四頁及び七〇〇頁であるが Cannan に據れば同譯四九頁ノートの貨幣の事も亦然りと云ふ。

四

流通問題以外の出版物で掲ぐべきものに "Amicus patriae" 著 Proposals for Traffic and Commerce or Foreign Trade in New Jersey. (Philadelphia, 1718.); Observations on the Act for Granting an Excise on Wine. (Boston, 1720); 匿名氏の The Interest of the Country in laying Duties: or a Discourse shewing how Duties on some Sorts of Merchandize may make the Province of New York richer than it would be without them. (New York, 無日附〔一七二六〕) がある。その後再び租稅に關する議論の起つたのは十八世紀の中葉 Massachusetts に於て消費稅賦課の提案が行はれた際である。その論爭中特に記すべきものは一七五四年 Boston 刊行の二冊子 Some Observations on the Bill intitled An Act for Granting to His Majesty an Excise upon Wines and on Spirits Distitled; 及び The Good for the Community impartially Considered, in a Letter to a Merchant in Boston, in answer to one received, respecting the Excise-Bill. By a True Friend to Liberty. である。

此時代に及んで富に關する一般問題に論及した最初期の著書が現はれた。その中主要なるは Some Remedies Proposed for Restoring the Sunk Credit of the Province of Penn-ylvania with Some Remarks on its Trade. (Philadelphia, 1721.) 並に同一著者の Wages and Means for the Inhabitants

of Delaware to become Rich. (Philadelphia, 1725.) 之れに對する應答論文 James Logan, A Dialogue shewiug What's Therein to be Found. A Motto being Modish for Want of good Latin, are put English Quotations. (1725); Cadwallader Colden, Papers relating to an Act of Assembly of the Province of New York, for Encouragement of the Indian Trade, etc., and for Prohibiting the Selling of Indian Goods to the French, viz. of Canada. (New York, 1724.) 就中重要なのは Joseph Morgan, The Nature of Riches, shewed from the Natural Reasons of the Use and Effects thereof. (Philadelphia, 1732.) であると云ふ。

次に農業に就いての著述は少しく遲れ一七四八年から一七五九年にかけて有名な牧師 Jared Eliot によつて Essays upon Field Husbandry in New England as it is or may be Ordered 六編が著はされた。此問題に關して生じた興味は Extracts from the Essays of the Dublin Society Relating to the Culture and Manufacture of Flax. (Annapolis, 1748.) 及び Charles Woodmaston の匿名著 A Letter from a Gentleman from South Carolina on the Cultivation of Indico. (Charleston, 1754.) の出版を見るに至つた。又 A. Benezet, A Short Account of that Part of Africa inhabited by the Negroes ..... and the Manner by which the Slave Trade is carried on (Philadelphia, 1762.) 中には奴隷問題に關する最初の議論が見出される。

一七六三年の糖蜜條例 (Molasses Act) の制定と共に同問題の經濟的方面の論爭を生じた。一七六四年出版の小冊子中次の數冊が掲ぐるに足るものであると云ふ。Considerations upon the Act of Parliament whereby a Duty is Laid of 6d. Sterling per Gallon on Molasses, etc., shewing some of the many Inconveniences Necessarily Resulting from the Operation of the said Act; Oxenbridge Thatcher 匿名の The Sentiments of a British American: Reasons Against the Renewal of the Sugar Act as it will be Prejudicial to the Trade not only of the Northern Colonies but to those of Great Britain also; James Otis, The Rights of the British Colonies asserted and proved; (以上總て Boston で刊行) 及び Thomas Fitch, Reasons why the British Colonies in America should not be Charged with Internal Taxes. (New Haven, 1764.)。此問題は他の諸植民地にも擴大し更に幾多の著述が現はれるに至つた。何れも政治上の性質を帶びては居たがやはり仔細に亘つては經濟方面に關係するものであつてその主なるは Daniel Dulaney の匿名著作 Considerations on the Propriety of imposing Taxes in the British Colonies, etc. (North America, 1765.); Jared Ingersoll, Letters relating to the Stamp Act. (New Haven, 1766.); The Examiners examined. Letter from a Gentleman in Connecticut (Ebenezer Devotion) to his Friend in London. An Answer to a Letter from a Gentleman in London to his Friend in America, etc.(New London, 1766.) 及び John Dickinson の匿名書 Letters from a Farmer in Pennsylvania to the Inhabitants of the British Colonies. (Philadelphia, 1768.) である。而して此時期に於て租稅に直接關係のない唯一の論文は The Commercial Conduct of the Province of New York Considered ..... in a Letter to the Society of Arts, Agriculture, and Economy (New York, 1767.) だけである。猶母國によつて印紙稅 (stamp taxes) の賦課せらるゝや夥しい數の反對論が刊

行されたが、併し何れも主として政治的色彩を帶びたものであつた。（註）

（註）本稿全篇が殆ど書目に類するものなるが殊に此一節は他に適當の參考書を得なかつた爲め Seligman に全然據つたので單に書名の列擧に止まり甚だ無味乾燥なものとなつたことは充分筆者も認める所である。

五

Benjamin Franklin は Seligman に據れば植民地時代の經濟問題に關し堂々たる議論を吐いた唯一の論者であると。又 Hollander は彼を以て第二期國家創成時代の政治家中 Jefferson 及び Hamilton と共に三大經濟論客であると云ふ。或は又 Benjamin Franklin as an Economist, 1895. の著者 W. A. Wetzel の如き彼を「經濟學者なる尊稱を以て崇めらる可き最初の米國人」であると云ふ。（p. 56 cit. by Hollander）之に反して又一方には Leslie の如き「Franklin すら決して經濟學の根本原理を極めて居なかつた樣だ」（op. cit., p. 128）と評してゐる。併し此評言の直ぐ前に Dunbar の前掲論文を引用して居るからして Leslie は恐らく Dunbar の批評のみによつて斯る判斷を下したのではあるまいかと思ふ。Dunbar は彼を以て理論の人ではなく便宜主義の人であつて直接の實際問題を論ずるには時に賢明であつたが、緣遠い原因などの思索に沒頭する樣な人ではなく、又彼の論は保護論者からも自由貿易論者からも大いに歡迎される底のものであつた。そして又「單に經濟學の發達に貢獻するところがなかつたのみならず當時既に發達した程度の斯學をも理解してゐなかつた」とまで酷評してゐるのである。（op. cit., 6-7.）（註一）

通貨問題の論爭に加つて Franklin が一七二九年に發表した論文に就いては既に一言したが、彼は同論文中に於て土地を保證とした紙幣は、人口の增加と共に地價は騰貴するが故に益々確實となるものであると主張し　又「通貨の豐富は利率を低減し而して移民及び國内製造業を奬勵するであらう」と紙幣增發政策に贊成した。D. R. Dewey は「Franklin は資本と通貨とを混同してはゐたけれども貨幣の欠く可らざる用途を明確に理解し、「通貨としての貨幣は商品の交換に當つて之が節約する時間と勞力とによつて附隨的價値をも有するものである」と說いた。そして彼が紙幣の利益を主張した際には "well founded" の紙幣を念頭に浮べてゐたのである』と辯護してゐる。併し此問題に就いては後年自叙傳中に彼自らも My friends, who considered that I had been of some service, thought fit to reward me by employing in printing the money, a most profitable job, and a great help to me. と書いてゐる。

植民地の製造業に對する議會の反對が Townshend 調査委員會及び一七五〇年の禁止案となりその極に達した際に、彼は Observations Concerning the Increase of Mankind.（1751.）を發表した。その中で彼は住居と食物が供せられ、競爭といふ事がなければ生物は動植物共にその增加に制限はないものであるが、併し結局人口は一定の Checks によつて增加を制限せられるものである事を認めた。又人口の最大增加に比して土地が廣大で安價なことが米國植民地をして母國と產業上競爭することを妨げるであらうと主張した。彼が人口論に於て Malthus の先驅者の一人なることは何れの著者も認めてゐるところであるが、Malthus は說明材料を彼に求め、又 preventive check として生活程度の高いといふ事が及ぼす所の效果に關しても彼から暗示を得たと稱せられる。或は Malthus は

Franklin の著名な章句を引用してゐると云はれてゐる。(Haney, op. cit., p. 194 note 參照)

米國植民地に於て人口が各二十年毎に二倍するとの算定を初めて行つたのは彼である。此人口增加率の計算を Adam Smith はそのまゝ採用してゐると稱せられる。又彼は同論文中偶然にも無料地の豐富な國では何故に賃銀が永續的に高からざるを得ないかの理由を指摘した。

一七六〇年に發表した The Interest of Great Britain Considered with regard to her Colonies and the Acquisition of Canada and Gnadaloupe. 中では分業の原則を說き、農業の利益大なる地方には製造工業を起し發達させる事が何故困難であるかを說明した。On the Price of Corn and Management of the Poor. (1767.) 中には輸出稅の有害無益なる理由を明にし「貧民に有利ならしめてやる最良方法は貧民を貧困の中にあつて安易ならしめてやる事ではなくしてその貧困から誘ふて脫出せしめてやるにある」と主張した。そして英國の救貧法を非難して植民地に之と類似の施設を行ふ事に反對した。

彼は Positions to be Examined Concerning National Wealth. (1769.) には Physiocrats の影響を受けて製造業を不生產的なりと見做す樣な說を述べた。又 Reflections on Augmentation of Wages which will be occasioned in Europe by the American Revolution. (1788.) では cheap wages と low price wage とを區別し high wage が cheap labour なることのあるのを指摘した。一七八九年の Wail of a Protected Manufacturer. は恩惠を蒙つてゐる有利な階級の利己的な議論に反駁を加へた。

併し Franklin の經濟思想家、社會哲學者として の大いなる感化は彼が編輯出版に從事した Pennsylvania Gazette. や Poor Richard's Almanack. に年々發表された "the art of virtue" に關する簡單な格言と常識的說敎によつて廣く世間に普及したと云はれる。又國の內外に於ける彼の名聲も之によつて擧つたのであると云ふ。Dugald Stewart の評するところによれば「laissez faire 及び pas trop gouverner と云ふ言葉が廣く通用されるに至つたのは新舊兩世界の輿論に極めて大なる勢力を有してゐる Franklin の簡單明瞭な註釋に主として據るのである」と。

彼の後年の經濟論文は歐洲の學者に接觸した後に起草されたものである。即ち一七五七年から一七七五年(その間一七六二年に一度歸國す)に至る間植民地の代表者として海外に駐劄し、英國では Kames 卿 Robertson 博士、David Hume, Adam Smith, と會して植民地の諸問題及び抱負等を談じ、又 Paris では Quesnay, Mirabeau, Du Pont, Turgot と相交つてその敎義の影響を受けて歸米したと云はれる。(註二)

(註一) Dunbar の前揭論文の價値に就いて F. A. Fetter は Turner, The Ricardian Rent Theory. の序文中で Dunbar は殆ど大低の原本は讀んでゐないし又讀んでも當該問題の理論を正當に評價するの資格がなかつたまで極言してゐる。

(註二) 此節は Seligman, Hollander, Haney の外 D. R. Dewey 寄稿の傳記 (Palgrave's. vol. II p. 123) に據る。Franklin の經濟上の著作は Willard Phillips によつて Works of B. Franklin (Spark's ed.) Boston, 1836. vol. ii 253-521. に收められてゐる。

又經濟學者としての彼を論じたものに前揭 Wetzel の著作の外 R. Hildebrand, B. Franklin als Nationaloekonom, Jena, 1863. がある。

六

革命の財政上の困難と州聯盟（Confederation）時代の經濟上の窮乏は又幾多の議論を釀すに至つたがその論者中最も有力なのは Pelatiah Webster と Samuel Gale であつた。Webster は一七七六年以降十ヶ年に亘つて當時の通貨の弊害を論じた幾多の論文を發表した。何れも Political Essays on the Nature and Operation of Money, Public Finance, and Other Subjects. (Philadelphia, 1791.) の一卷に收錄せられてゐる。South Carolina 生れの Gale は同卷の Essays on the Nature and Principles of Public Credit. (1784-1786.) を刊行した。經濟問題に數學的說明を試みた最も古い著書であると稱せられる。

米國獨立直後の困窮時代に於ける一般貿易の衰退に伴つて發表された James Madison, Robert Morris の如き政治家の著作は別とするも多くの論說が發表されるに至つた。即ち An Essay on the Causes of the Decline of Foreign Trade. (Philadelphia, 1784.); William Barton, The True Interest of the United States and particularly of Pennsylvania considered. (Philadelphia, 1786); 租稅の種類と額に斷乎たる斧鉞を加へんことを說いた The Commercial Conduct of the United States of America considered and the True Interest thereof attempted to be shown by a Citizen of New York. (New York, 1786.); 西印度貿易を米國建造船舶にのみ限らんと主張する匿名者の Reflections on the Policy and Necessity of encouraging the Commerce of the Citizens of the United States (Richmond, 1786.) 等がある。又政治上の獨立に次いで產業上の獨立を決行せんとの運動は各州の保護關稅の制定と共に始つた事ではあるが此時代に及んで又新に盛んな議論が戰はされるに至つた。即ち製造工業の利益を詳述した最初の著書に Tench Coxe の匿名著 An Enquiry into the principles on which a Commercial System for the United States should be founded. (Philadelphia, 1787.) がある。外國船の沿岸貿易の禁止、外國品の輸入を生產國の船舶に限ることその他當時の英國の商業政策の影響を受けた說を主張した。又彼は製造業の特別の奬勵並に原料の輸入稅免除を要求した。次いで彼は An Address to an Assembly of the Friends of American Manufactures. (Philadelphia, 1787.) を著はして之を再說し、「工場は風車、水車、火力、馬力、並に巧妙な發明機械によつて營まれる」と說いた。斯くて一團體が組織せられ The Plan of the Pennsylvania Society for the Encouragement of Manufactures and the Useful Arts. (Philadelphia, 1787.) の出版を見た。同一問題は更に Observations on the Agriculture, Manufactures and Commerce of the United States, by a Citizen of the United States. (New York, 1789.) 中に論議された。

又此當時の財政狀態は多くの疑惑と激しい論爭の的となつた。そして各州の此問題に關して幾多の論說が發表されたがその中特記すべきは Benjamin Gale の匿名論文 Brief, Decent but Free Remarks and Observations on several Laws passed by the Honorable Legislature of the State of Connecticut since the year 1775. By a Friend to his Country. (Hartford, 1782.) である。國家の信用狀態に關して生じた多くの評論中に一七八三年 Philadelphia 出版の二書、Letitia Cunningham, The Case of the Whigs who loaned their Money on the Public Faith fairly stated. 及び匿名の Three Letters addressed to the Public on: the Nature of a Federal Union, the Civil and Military Power,

the Public Debt. がある。此等の冊子は他の問題と共に歳入及び通貨の狀態を論じた。銀行業問題に關して初めて論議した論文は Considerations on the Bank of North America, Philadelphia, 1785. であつて之に次ぐものは Mathew Carey 最初の出版論文 Debates and Proceedings of the General Assembly of Pennsylvania on the Memorials praying a Repeal or suspension of the Law annulling the Charter of the Bank. (Philadelphia, 1786.) である。

之等の冊子に比し一層一般的な觀察を行つたのは Essay on Money as a Medium of Commerce with Remarks on the Advantages and Disadvantages of Paper admitted into General Circulation. (Philadelphia, 1786.)(往々にして Pelatiah Webster の著と稱せらるゝ Seligman に據れば恐らく John Witherspoon の著書であらうと) である。又同一問題は Aristides [G. A. C. Hanson], Remarks on the Proposed Plan of an Emission of Paper and on the Means of effecting it, addressed to the Citizens of Maryland. (Annapolis, 無日附 [1787]) 中に可成り聰明な觀察が下されてゐる。當時の歳入の困難が各州及び州聯盟の徴稅計畫を多く案出せしめるに至つたがその中で最も重要なのは家屋稅を論じた Thoughts on Taxation in a Letter to a Friend.....humbly submitted to the Good People of the State of New York. (New York, 1784.) 及び消費課稅を辯護した一層精細な James Swan の匿名論文 National Arithmetic or Observations on the Finance of the Commonwealth of Massachusetts. (Boston, 無日附 [1786]) 並に聯邦稅を主張した Honesty shewed to be True Policy or a General Impost considered and defended. By Plain Politician. (New York, 1786.) である。

上記 James Swan ——商人、政治家、軍人、著述家を兼ねた——は之より先き一七七三年に A Dissuasion to Great Britain and the Colonies from the Slave Trade to Africa. (Boston) を著はし卷頭 Massachusetts の知事への獻辭中自ら蘇格蘭人と稱して次の樣な說を述べた。奴隷制度なるものは Africa の種族間に戰爭を惹起させその俘虜を奴隷として賣却せしめやうとするものであつて基督教精神を毀ふものであると。更に奴隷船の戰慄すべき有樣を詳述し、寧ろ黑奴と平和な取引を行つた方が經濟上有利であつて之を實行するに於ては「今日同地に二十志の代價の商品を輸出する英國商人はその時こそは百磅を輸出する樣になるであらう」と主張した。又一八一九年には An Address to the President, Senate, and House of Representatives of the United States, on the means of Creating a National Paper by loan Offices which shall replace that of the discredited Banks, and supersede the use of Gold and Silver. (Boston) を著はして十六億弗の價値ある八億エーカーの土地を保證して一億五千萬弗の三分利附流通證券 (current bills) の發行を提案しその利益を說いた。猶彼は一七九〇年及び一八二八年に Paris から佛文の經濟論文二篇を出版した。

又農業の經營に關する興味は American Husbandry, By an American. (1775) によつて喚起せられ、次いで C. Varlo, A New System of Husbandry from many Years Experience. (Philadelphia, 1785.) が發表された。猶統計學的研究が當時に至つて殊に Jedidiah Morse, The American Geographer. (Elizabethtown, 1789.) 中に始つた事も亦注意すべき一事であつた。

七

新憲法の採用と共に先づ議論の交へられたのは經濟問題であつて當時の主なる政治家の注意は之に集中した。併し乍ら經濟思想家として傑出した公人は甚だ僅少に過ぎなかつた。その中に前掲の Jefferson と Hamilton がある。

Thomas Jefferson も亦 Franklin と同樣に Paris 駐在中（一七八四年―一七八九年）に當時の經濟思想家 Morellet, Turgct, Lafayette, Du Ponst de Nemours 及び Destutt de Tracy から大なる感化を受けた。Tracy は彼の勸によつて Montesquieu の De l'Esprit des Lois の批評を發表した。Jefferson は之を飜譯し一八一一年に Philadelphia から出版した。又一八一三年には Tracy は原稿 A Treatise on Political Economy. を彼に送附して來た。彼は Duane にその飜譯を勸め又 Milliken にその出版を說いた。斯くて一八一七年に出版された。又彼は此原稿を「周到な校閲訂正を加へた」と自ら語つて居るが、併しその通讀によつて益する所があつた樣子なゝ Jefferson の經濟問題に對する唯一の貢獻は Notes on Virginia. (1782) あるのでみであると云ふ。

Alexander Hamilton は軍事並に政事に携る餘暇には歴史、經濟學及び財政に關する讀書を怠らず又殊に Adam Smith を研究して長篇の評論を起草した――現存せざるも――と稱せられてゐる。(Bourne, Alexander Hamilton and Adam Smith) 或は既に二十才にして斯學に關して讀書研究爲し二十五才の時には革命の陣營にあつて合衆國の銀行に關する計畫案を立て其問題に就いて當時の財政家 Robert Moorris と通信を交はしたとも云はれる。一七八二年と一七八三年に會議の議員となり一七八三年十二月十六日には Report on the Import Duty を起草した。一七八九年新政體の成立に依り Washington の大統領就任と共に彼は三十二才にして大藏卿に選任された。そして在職六年の短時日の間に多くの難問題を解決して共和政府の財政上の基礎を確立した。その間に發表した數々の公文書中最も重要なのは次の五報告書である。即ち合衆國の財政上の信用恢復に導いた一七九〇年及び一七九五年の Report on Public Credit. the Bank of the United States を創立せしめるに至つた Report on a National Bank. (1790) 貨幣制度を決定せしめた Report on the Establishment of a Mint. (1791) 及び其後に於ける保護貿易論の源泉となりし Report on Manufactures. (1791) 之である。その他租稅に關する諸報告及び減債基金に關するもの等がある。Hamilton の財政上の功績は Washington の軍事上の手腕及び Marshall の司法上の才能に比すべきであると云ふ。複本位制、減債基金、國立銀行、その他財政に關する論策の價値は主として當時の財政策に直接影響を與へたに止まるが、製造工業に關する報告書中に主張した保護貿易論に至つては十九世紀の二大保護論者 Friedrich List と Henry C. Carey の精神的父として保護政策なる名稱と共に彼の名を不朽ならしめたものである。List, Carey 共にその個々の議論は之を增補し或は說明を加へたとは云へその論據は Hamilton の報告書中に見出されるのである。(註)

Hamilton に比すべき政治家にして、專門財政家としては Hamilton にも優ると評せられるのは Albert Gallatin (1761-1849) である。彼は瑞西の Geneva 生れで一七八〇年に米國に移住した。Jefferson が大統領に當選するや入つて大藏卿となつた。「賢明、愼重、控目な Gallatin は Hamilton の施設に殆ど何等の變更を加へずして十二年の間極めて巧みに國家の財政を運用した。」(Henry

Cabot Lodge in Ency. Brit., sub nom.）彼の經濟及び財政問題に關する公文書は浩瀚なものである。大藏卿としての報告並にその他の國務文書及び演說から成り何れも正しき判斷と記述の正確なものであつて米國の產業及び財政史の貴重な材料であると稱せられる。Seligman は彼の公私の著作を次の三期に區別した。併し主として十九世紀に入つてから公にされたものである。

第一期は A Sketch of the Finances of the United States. (New York, 1796.); Views of the Public Debt, Receipts and Expenditures of the United States. (Philadelphia, 1801.)

第二期は何れも Washington 出版の主要な公文書、就中 Report on the Subject of Public Roads and Canals. (1808.); Report on the Subject of a National Bank. (1809.)

第三期に於ける最も重要な論文は Considerations on the Currency and Banking System of the United States. (Philadelphia, 1831.); Memorial of the Committee of the Free Trade Convention. (New York, 1831.) 及び Suggestions on the Banks and Currency of the Several United States in reference principally to the Suspension of Specie Raymenents. (New York, 1841.) であると云ふ。

前掲一八三一年及び一八四一年の通貨及び銀行業に關する小冊子中には最良の史料たる當時の通貨史の概要を述べ又正貨支拂の維持を極力主張した。一八三三年に自由貿易會議の爲に起草した Memorial 中では自由貿易贊成論を力說し Ricardo の學說に影響を受けて居る事を示した。

猶十八世紀末の政治家の經濟論中注意すべきものに Wolcott 起草の Report on Direct Taxes. (1796.) がある。

（註）Report on Manufactures の內容を紹介する餘裕なく略したが右については商業政策及び米國の關稅問題に關する著書中には何れも述べられてゐる。財政家としての Hamilton を論じた論文に Dunbar, Some Precedents followed by A. Hamilton. (Economic Essays 中に收錄す) がある。

八

十八世紀最後の十年間には論客の注意が商業及び財政問題に向けられた。先づ商業に關する文獻を覗ふ。此期に於ける最も著名な論者は既に一言した Tench Coxe である。前掲論文の後一七九一年には Brief Examination of Lord Sheffield's Observations on the Commerce of the United States. (Philadelphia) を著はして Sheffield 卿の新興共和國の將來に對する辛辣なる豫言の誤謬なることを指示した。既掲及び此論文その他を集めて一七九四年に A View of the United States of America, ... written at various Times the Year 1787 and 1794; ..... (Philadelphia) を出版した。米國の產業上の可能性に關した五百頁以上に達する廣汎な研究である。

彼は熱心に紡績業の創業の爲めに努力した。米國に初めて Arkwright の機械を据付けんとしたのは彼であると云はれる。又彼の爾餘の著作中には Thoughts on Naval Power and the Encouragement of Commerce and Manufactures. (1806.); Memoir on Cultivation, Trade and Manufacture of Cotton. (1807.); On the Navigation Act. (1809.) 等がある。就中四折判の A Statement of the Arts and Manufactures of the United States of America for the Year 1810. (Philadelphia, 1814.) は一八一〇年の國勢調査の爲めに國家の監督の下に調製したものであつて調査を擴張して產業調査をも行はう

とした初めての計畫であつた。初めの部分は説明で殘部が統計であつたが今日から見る時には統計的研究としては殆ど失敗であると云ふ。猶彼の公文書(1790-97)は American State Papers, Finance, vol. i は收められて居ると。

他の著者の發表した論文中で一般貿易に關するものに Brissot de Warville と Étienne Claière の飜譯 The Commerce of America with Europe. (New York, 1795.) 及び James Bowdoin, Opinion respecting the Commercial Intercourse between the United States of America and the Dominions of Great Britain..... (Boston, 1797.) があり、又之より少し遲れて Jay 條約に關する激しい論爭に關連して次の如き論文が發表された。即ち A Candid Examination of the Objections to the Treaty of Amity, Commerce, and Navigation, etc., by a Citizen of South Carolina. (Charleston, 1795.); Features of Mr. Jay's Treaty to which is annexed a View of the Commerce of the United States. (Philadelphia, 1795.); The Remarks on the Treaty of Amity, Navigation, and Commerce, by a Citizen of the United States. (Philadelphia, 1796.); Robert Goodloe Harper, Address to his Constituents containing the Reason for approving of the Treaty. (Boston, 1796.) 並に Camillus なる假名を用ひた Hamilton の A Defence of the Treaty..... Commerce and Navigation. (New York, 1795.) がある。

次に此時代の財政方面の問題を説ふに一般論に關して若干影響のあつたのに James Sullivan の匿名著 The Path to Riches. An Inquiry into the Origin and the Use of Money, by a Citizen of Massachusetts. (Boston, 1792.) があり、國家の信用に關しては Fallacy detected by the Evidence of Facts, and Considerations on the Impolicy and Injustice of a Compulsory Reduction of the Interest in the Public Debt. (1790.); The Shapherd's Contemplation, or an Essay on Way and Means to pay Public Debt. (Philadelphia, 1794.) 中に論せられた。歳入問題は前記最後の論文中にも論せられたが猶 Laughan 博士が Letter addressed to the Yeomanry of the United States shewing the Necessity of confining the Publie Revenue to a Fixed Proportion of the Net Produce of the Land. By a Farmer. (Philadelphia. 1791.) 中に於ける「各種間接稅」に對する攻擊並に Philip Schuyler, Remarks on the Revenue of the State of New York. (Albany, 1796.) に於ても論せられてゐる。

工業家の利益を代表する Hamilton と農業家の利益を代表する Jefferson との間の經濟論上の爭は聯邦主義者と共和主義者間の政治上の論爭となつた、そして興味ある論文が發表されるに至つた。John Taylor はその著 An Examination of the Late Proceedings in Congress respecting the Official Conduct of the Secretary of the Treasury. (Philadelphia, 1793.) 中で公債政策に反對した。又 An Enquiry into the Principles and Tendency of Certain Public Measures. (Philadelphia, 1794.) では銀行を以て貴族階級の機關なりと非難した。彼と殆ど同時に J. T. Callender の諸書、即ち Sedgwick & Co., or a Key to the Six per cent Cabinet (Philadelphia, 1798.); The Prospect before us. (Richmond, 1800-1801); Letters to Alexander Hamilton, King of the Feds, etc. (New York, 1801-2.) 並に William Findley, Review of the Revenue Legislation adopted by the First Congress. (Philadelphia, 1794.) 等

が刊行された。

工業奬勵運動の反對論には George Logan 匿名の Five Letters addressed to the Yeomanry of the United States, containing some Observations on the dangerous scheme of Governor Duer and Mr. Secretary Hamilton to establish National Manufactures. By a Farmer. (Philadelphia, 1792.) がある。當時は農業に關する利害問題は最高潮に達したかの觀があつた。そして Samuel Deane, The New England Farmer or Geographical Dictionary. (Worcester, 1790.); J. B. Bordley, Sketches on Rotations of Crops and other Rural Matters. (Philadelphi, 1792.) と同著者後年の Essays and Notes in Husbandry (Philadelphia, 1799.) 並に John Spurrier, The Practical Farmer. (Wilmington, 1793.) 等が發表された。又西部の土地並に土地所有權の問題に對して注意を喚起するに至り之に關する著書に Robert Mooris の序文ある Observations on the North American Land Company lately instituted in Philadelphia. (1796.); John Rutherford 匿名の Cautionary Hints to Congress respecting the Sale of the Western Lands. (Philadelphia, 1796.); Barnabas Bidwell の匿名書 The Susquehannah Title stated and examined. (Catskill, 1796.) 及び Abraham Bishop, Georgia Speculation Unveiled. (Hartford, 1797-8.) が著はされた。

猶此十八世紀末に於て注意すべき著書に An Historical Account of the Rise, Progress and Present State of the Canal Navigation in Pennsylvania, (Philadelphia, 1795.) と米國版の Godwin, Enquiry Concerning Political Justice. (Philadelphia, 1796.) の出版がある。

新刊紹介

R. H. Snape, English Monastic Finances in the Later Middle Ages. 8vo. pp. IX & 190. Cambridge, 1926.

英蘭に於ける僧院の解散（the Dissolution）が如何なる理由に依つて惹起されたかは確かに興味多い問題である。是まで解散の原因を探求するに多くの史家は第十五世紀後期及び第十六世紀前期の記錄を以つてした。從つてこの時期の僧院生活は甚だよく研究されてゐる。又初期僧院の生活も比較的十分に紹介されてゐる。然るにその中間の時期に關しては全然一般的研究を缺如してゐる。Gasquet の Henry VIII and the Monasteries や English Monasticism の如きものもその缺陷を滿たすに足りない。僧院の規約や定則が僧院生活の全部ではない。それ等は寧ろ彼等の理想である。こゝにも吾人は中世に於ける理想と實際との罅隙を發見する。以下吾人は第十二世紀より第十六世紀に至る僧院生活の實際方面を述ぶるに當り、その財務關係を調査しようと思ふ。是等の記錄は僧院の日常事務を簡明に記述せんとする以外に特種の目的を有するものではないから、それだけその物質的生活を鮮明ならしむるに便利である。（序論）

是等の時代の僧院には三種の人々が住んでゐた。第一は通常の僧侶（新發意（novices）もこの中に含む）第二は俗兄弟（lay brethren）第三は俗人（laymen）である。先づ第二の俗兄弟即ち conversi に就